

ふじみ野市立葦原中学校3年
福寿 莉央

二〇二〇年、夏。

中学三年生の夏休みは、私が想像していたものとはまるで違っていた。

例年であれば、夏休みに様々な高等学校で進学イベントが開催されるが、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、今年は開催しない学校が多かった。そのため、私はオンライン説明会に参加したり、受験情報誌を読んだりして情報を集めていた。少しでも自分の将来の選択肢を増やして、可能性を広げたいと思ったからだ。するとあるとき、興味深い記事を目にした。

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業。二〇一九年度から始まった文部科学省による高校生のための事業で、イノベティブなグローバル人材の育成を目的に行われている。これは、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生により高度な学びを提供する仕組みを構築するものである。

公立学校に通う中学生、高校生の教育費として一人につき、年間およそ一〇〇万円の税金が使われていることや、SSH、SGHなど、教育に関わることに多くの税金が使われていることは知っていたけれど、私はこの記事を読んで、昨年度からまた新たな事業が始まっていたことを知った。税金制度は、私たちの教育を常にいろいろな形で手厚くサポートしてくれている。学校という垣根を越えて、より良い教育環境を生み出すこの事業は、私たちに新たな選択肢を与えてくれる素晴らしいものだ、と感じた。

そして今、世界は新型コロナウイルスに関する多くの問題を抱えている。この難局を乗り越えるためには、世界の国々が協力し、一丸となって立ち向かう必要があるのだ。このような世の中だからこそ、WWLコンソーシアム構築支援事業は、今まさに求められている教育事業なのだと思う。

私たちに与えられた豊かな教育環境は決して当たり前なものではない。今回、新型コロナウイルスによる臨時休校を経て、私は改めてそう強く思った。学校に行くことが当たり前であったときには気づくことができなかった、教育を受けられることのありがたさ。一度、非日常を経験してみて初めて「見失いがちな本当の豊かさ」を知った。また、良い教育環境を整えてくれる税金制度も当たり前のもではなく、みんなが助け合い、協力することで存在しているものなのだ。

だから私は、今ある日常と税金制度にもっと感謝をして、残り少ない中学校生活を大切に過ごしていきたいと思う。そして将来、社会に貢献できる人となるために、今は受験勉強に励んでいく。

二〇二一年、春。

桜が満開に咲くことを信じて。